

年頭の辞

衆議院議員

中谷 真一



筆を取っている今も昨年10月7日のハマスによるイスラエルへの攻撃によって勃発したガザ地区における戦争は今も継続しており日々、多くの命が失われています。また、ロシアのウクライナ侵攻は今なお終焉が見通せない状況です。世界の安全保障環境は戦後、最も厳しく「第3次世界大戦」が始まっていると表現する識者もいます。

私は昨年6月にイスラエルへ出張しました。この時のムードは「イスラエルは歴史上、最も安全になっており、さらに近々、アラブ連盟と協定を結べばさらに安全になる」というものでした。その4カ月後に戦争が起きたのですから、全く予断を許さない今の世界の安全保障環境そのものだと感じます。

私たちが住む、東アジアも例外ではありません。軍事・経済において米中の摩擦が厳しさを増しています。数年以上以内に中国が台湾に対し侵攻すると明

言する米軍将官もいます。中国が軍事的に米国と対峙するためには、太平洋洋に出て行かなければ勝負になりません。中国の太平洋進出を阻むかのように日本列島と台湾があり、一国であると主張し、言語も同じである台湾に対してならば様々な手段を取ることができると踏んでいるでしょう。もし仮に台湾が赤く染まれば日本は非常に危険になります。日本の調達するエネルギーは中東から来るものが多くを占めており、中国の支配する海域を通らなければならなくなりそうです。「台湾有事は日本の有事」と言えます。しかし、ロシアのウクライナ侵攻を見れば核保有国が行動を起こした時にできる対抗手段は限られており、米国でさえ直接介入はできません。さらに台湾は島国であり、有事の際中の支援は困難を極めます。よって、まさに準備段階といえる今、台湾を強化し抑止力を高めることが重要であり、様々なものを事前に集積しておく必要があります。防衛装備移転の態勢を早急に整え、事前集積を支えなければなりません。さらには情報収集態勢の強化も重要です。衛星コンステレーション等、宇宙政策を進めることで通信、情報収集を支えなければなりません。

日本の安全保障のために現場を経験した一人の政治家として、これらを強力に進めて参ります。皆様の引き続きのご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。